

ご意見、ご感想は〒530-8251 毎日新聞「プラスα面健康・医療」係。ファクス(06・6346・8228)、メール(o.iryu.hotline@mainichi.co.jp)へ。

## おおさか発・プラスアルファ

土  
健康・医療

からだ  
向き  
α

### 精度と確実性が向上した手術

### インプラント

インプラントは、他の残存歯を利用することなく喪失した歯を補綴できる治療法ですが、70年代以前までは、埋め込まれたインプラントのうち補綴物が入った後5年間正常に機能を発揮できる確率が30%程度と、実用的な治療法というよりもむしろ歯科医学上のチャレンジといえるべきものでした。

これに対し、今年9月に私たちが日本口腔インプラント学会で発表したデータでは、研究に供された合計975本のインプラントのうち、顎の骨と接合しなかったインプラ

化を全身監視装置(自動血圧計)でモニターしながら局所麻酔下で行われます。インプラントの埋め込みは人工臓器移植手術ですから、手術室などの独立した清潔な環境で行うことが好ましく、術中は抗生物質の点滴を行うことで感染の予防をはかります。

症例によっては手術時間が2時間を超える場合もあり、「痛み」のコントロールは安全な手術のためにも重要です。インプラント治療を受け方は高齢者も多く、過度の痛みや緊張は高血圧や心臓病などの全身疾患を持つ患者さんにとってはリスクとなります。そこで点滴を利用して、患者さんの過度の緊張を取り除き、さらに手術時間を短く感じさせる健忘効果のある静

河村歯科医院  
(大阪市中央区高麗橋)  
院長 河村達也



## 全身を監視して安全に

ントはわずかに7本(0.7%)のみで、今やインプラント手術の精度や確実性は格段に向上したと言えます。しかし、インプラントの埋め込みを安全に実施するためには注意すべき点も多くあります。

手術は術中の血圧などの変

脈内鎮静法を麻酔と併用して行うと効果的です。

埋め込み手術では、術部の歯肉をメスで切り開いた後、理想的な補綴物のため術前診断の際に決められた位置や方向に、専用のドリルを用いてインプラントのサイズに合わせた穴を顎の骨にあけます。この時、精密にドリリングを行うため、歯科用の透明なプラスチックで補綴物の形に似せて事前に作製しておいた、手術用ステントというガイドを併用することが大切です。

インプラントの埋め込みが終わると、歯肉を縫合し手術が完了します。インプラントが骨と強く接合するまでに、下顎で3カ月、上顎では6カ

手術後は、症例の大きさによって個人差がありますが、痛みは翌日には治まることがほとんどです。腫れは翌日がピークで、5日目ごろから引いてきます。また、内出血により打ち身の後の青あざのような出血斑が現れることもあります。徐々に黄色くなり2週間ほどで消えてしまいうので心配はありません。下顎では一時的にしびれが出る場合もありますが、神経さえ傷つけていなければやがて元に戻ります。抜糸は術後10日前後で行い、義歯の使用はそれ以後となります。

今回はインプラント治療の可否に大きく関わる、骨を造る治療法についてお話しします。



手術室で行われるインプラント手術の様子